

農業の新しい技術

No.573 (平成19年7月)

分類コード 02 - 08

熊本県農林水産部

三番茶を摘採しない茶園の夏秋期整せん枝技術

農業研究センター 茶業研究所

担当者：西澤法聖

研究のねらい

三番茶価格の低迷、原油価格高騰により平坦地域では三番茶を摘採しない茶園が増加しており、新たな整せん枝技術が必要となっている。

そこで、三番茶を摘採しない茶園における翌年の収量・品質の安定化を図るために、二番茶後の浅刈り更新を組み合わせた夏秋期の整せん枝技術を確立する。

研究の成果

- 1．二番茶摘採後に摘採位置から - 5 cmの位置で浅刈り更新を行った後、初回整枝位置を浅刈り位置と同じ高さとし、秋整枝位置を初回整枝位置から 5 cm上げとする（図1）。
- 2．この整せん枝体系では二番茶摘採後に浅刈り更新を行い、初回整枝は8月上～中旬に行う。
ちなみに、浅刈り更新後の初回整枝までの日積算温度(平均気温)は980 程度となり、秋整枝までは1,500 程度となる（表1）。
- 3．この整せん枝技術を用いることにより、翌年の一、二番茶生葉収量は三番茶摘採体系より安定して多収となる（図2）。
- 4．三番茶摘採の判断は7月上旬までに行い、判断の目安としては荒茶単価の市況状況からおおむね500円/kgが見込めない場合であれば、この整せん枝技術を使用する（表2）。

普及上の留意点

- 1．連年でこの整せん枝技術を使用しても、収量等に影響はない。
- 2．三番茶を摘採できる地域が対象であり、浅刈り更新の目安時期（表1）までに三番茶の摘採について判断する。

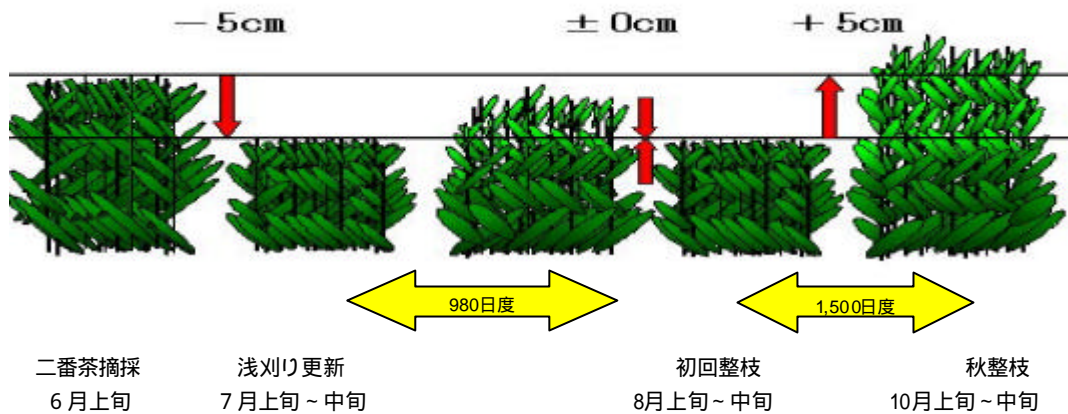


図1 整枝技術体系

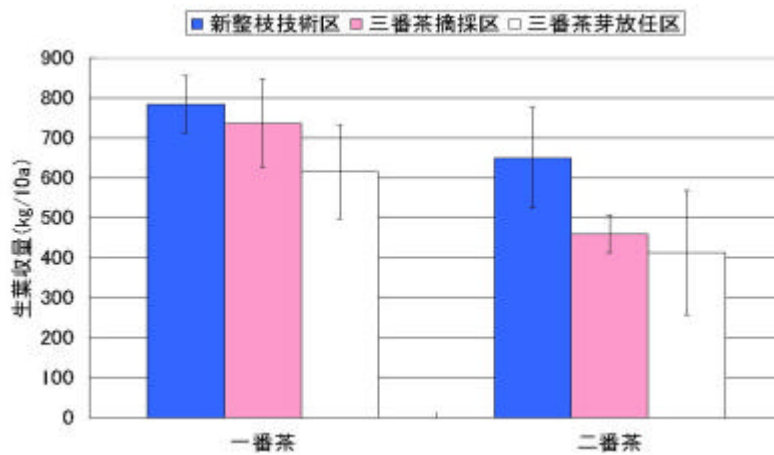


図2 生葉収量の比較 (3カ年平均)

表1 各地域の浅刈り及び整枝時期の目安

地点名	浅刈り	初回整枝	秋整枝予測日
美里町白石野	7月 2日 (969)	8月 9日 (1,508)	10月15日
大津町瀬田	7月 2日 (979)	8月 9日 (1,523)	10月15日
泉町下岳	7月 1日 (973)	8月 9日 (1,517)	10月15日
水俣市長崎	7月 4日 (978)	8月11日 (1,501)	10月16日
錦町木上	7月 3日 (980)	8月10日 (1,519)	10月16日
茶業研究所	7月14日 (981)	8月19日 (1,523)	10月24日

注) 茶業研究所は試験期間中の平均値。積算日度はアメダス推測値を使用。

秋整枝予測日は、各地点のアメダス推測値による平均気温が19℃を下回った10日後とした。()内は各作業間の積算日度。

表2 試験区の収益性の試算

試験区	荒茶収量 (kg/10a)			単価 (円/kg)		二番茶までの粗生産額 (円/10a)	二番茶までの粗生産額差 (円/10a)	三番茶摘採判断単価 (円/10a)
	一番茶	二番茶	三番茶	一番茶	二番茶			
新整枝技術区	157	130	-	2,003	788	416,140	-	-
三番茶摘採区	147	92	90	〃	〃	367,494	48,646	541

注) 単価は平成18年経済連蒸し製玉緑茶入札平均単価